

I 実践

1 研究主題

児童一人一人が「楽しい」と感じられる学校の実現を目指し、様々な活動の場で人権を尊重する精神を育て広めていく教育の推進。

(1) 主題設定の理由

本校では『強く 正しく 美しく』歩む仲町っ子の育成－輝かせよう！自分の笑顔・友達の笑顔－』を教育目標とし、目指す児童像としては、「元気な子ども 考える子ども 思いやりのある子ども」、目指す教師像は、「愛情と熱意にあふれ、子どもの心に寄り添う教師」を掲げている。本校は、各学年単学級で全6クラスという小規模校であるため、他学年でも児童同士が顔見知りであったり、6年間同じクラスで気心が知れていたりする中で成長していく。このことを強みととらえ、学校行事などの活動を通して互いに理解し合い、差別や偏見のない人間関係を学ぶと共に、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育を進め、お互いを大切にしようという気持ちを育み、児童一人一人が「楽しい」と感じられる学校の実現を目指し本主題を設定した。

(2) 研究内容

- ア 豊かな体験活動の充実
- イ 人権についての啓発活動の充実
- ウ 人権教育に関する研修の充実

2 実践内容

(1) 豊かな体験活動の充実

ア 異学年との交流活動

木曜日のロング昼休みに行われる縦割り班活動（ハッピータイム）を中心に、学校行事などにも異学年交流を取り入れた。4月には、縦割り班で活動する「1年生を迎える会」を行った。5月の運動会では、縦割り班リレーを行い、縦割り班でチームをつくり、異学年で手をつなぎ、上の学年が下の学年が転ばないように声をかけながら仲良く走り、相手を思いやる活動の実践図った。

イ 親子学習会

- ・各学年の発達段階に合わせて、親子で学習した。
 - 1 学年 歯磨き教室（親子・友達とのふれあい）
 - 2 学年 親子でバスの乗車体験（親子のふれあい）
 - 3 学年 竹とんぼ作り（親子・地域のお年寄りとのふれあい）
 - 4・5 学年 命の教育（親子のふれあい）
 - 6 学年 喫煙防止教室（親子のふれあい）

ウ 地域の方との交流

5月・運動会

地域との共催ということもあり、児童と保護者や地域の方々が協力して行う競技を取り入れた。全校種目として、保護者や地域の方も交ざり、大玉送りを行い、大いに盛り上がった。

8月・仲町学区夏祭り

3、4年生が、運動会で披露した『いきいき茨城ゆめ国体ダンス』を発表し、夏祭りを盛り上げた。

9月・敬老会

1年生2名が、作文を発表し、5年生が、仲町小学校に代々受け継がれている太鼓の発表『八木節』を行って、地域のお年寄りのご長寿をお祝いした。

10月・ふれあいサロン

4年生が仲町交流センターで、地域のお年寄りとの交流活動『ふれあいサロン』を行った。お年寄りと一緒にお手玉やけん玉、あやとり、カルタなどの昔遊びや将棋などをして楽しい時間を過ごし、交流を深めた。

・日立風流物の体験

4年生、5年生の総合的な学習の時間では、この地域の特色ある伝統的な出し物（『日立風流物』）や受け継がれてきた太鼓の演奏について学んだり、体験したりすることで地域の方々と交流することができた。



【1年歯磨き教室】



【風流物の体験】

1 1 月・メロディフェスティバル

各学年、全校児童による音楽の発表を楽しんだり、親子で一緒に歌ったりすることで交流を深めた。また、地域の方も招待し、一緒に音楽を楽しむことができた。

1 2 月・昔遊びを楽しむ会

1 年生が仲町交流センターで、地域のお年寄りにお手玉やけん玉、竹馬、竹ぼっくりおはじき、駒回しなどを教えてもらい、交流を深めた。1 月には、この時教えてもらった遊びを地域の保育園生に教え、ともに触れあう機会を設ける予定である。

(2) 人権に関する啓発活動の充実

ア 人権メッセージ募集の実施

夏休みの課題として各学級で人権メッセージ募集への参加を呼びかけた。全家庭に人権メッセージ募集のお便りとメッセージを書き込むカードを配付し、家庭で親子や家族と一緒に「人権の大切さ」について考える機会とした。これらは校内の人権コーナーに掲示して定期的に入れ替えをした。児童は、自分の作品や知っている友達の作品などを探して見ていた。この活動を通して、家庭でも校内でも人権意識を高めることができた。

3 成果

- (1) 縦割り班活動を多く取り入れ、異学年と交流することで、自然と高学年の児童が、低学年児童の面倒を見たり、手をさしのべたりできるようになった。また、休み時間には、学年を超えて、仲良く遊ぶ姿が、多く見られた。
- (2) 地域との交流を深める中で、お年寄りや身近な人への尊敬や感謝の気持ちが育ち、思いやりの心がもてるようになった。そして、このことから相手を大切にしようと思う心が育ってきている。
- (3) 人権メッセージの募集により、子どもたちの中に人権に対する意識づけができた。また、家庭でも一緒に考えてもらうことで、保護者も含めて人権について意識付けの機会がもてた。

II 今後の課題

小規模校であるため、慣れが生じ、友達のことを呼び捨てて呼んだり、言葉遣いが乱暴になったり、教師など目上の人に対して敬語で話すことができなかったりといった傾向がある。

そこで、教師自身の児童を「さん」付けでの呼名や児童へのていねいな言葉遣いの実践をさらに徹底したりと、普段から人権を意識し、児童一人一人を大切にする指導を心がけていく必要がある。また、全職員で人権教育に関して共通の認識をもち、さらに人権意識が高められるように、研修内容や時期を工夫し、取り組みを進めていきたい。

また、地域や保護者との連携を密にし、保護者や地域全体の人権意識も一緒に高めていくことができるよう、啓発活動にも力を入れていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子



【人権メッセージコーナー】



【ありがとうの木コーナー】